

機械のオーダーメイド加工の効率化と社内体制を後押し

課題

高性能の機械を導入したいが資金不足

有限会社田中製作所は、もともと配電盤・制御盤を製造していたが、40年以上培った板金加工の技術を活かし、現在は工作機械メーカーや農業機械メーカーからの特注品・試作品のオーダーメイド加工に特化。高い精度を短納期で実現する技術力で、県内の農業用機械メーカーから、試作品の独占受注を獲得している。

しかし、次第に複雑になる形状・素材のプレス加工に、現有機械では対応できず、外注することがあった。それでは収益性を圧迫すると同時に、加工工程全体の把握ができず、工程の確認や問題点が改善できない。解決のために、レーザーパンチ複合機の導入を検討したが、資金面で折り合いがつかなかった。また、試作品の受注量が増えるなかで、曲げ工程がボトルネックとなって受注が受けられず、事業が拡大できないという課題も浮上。現有機械では加工時間が長く、短納期という同社の強みも脅かしていた。

支援

ものづくり補助金で機械導入へ

支援に当たったつくば商工会では、生産体制の再点検を行い、レーザーパンチ複合機の導入による板金加工製品の短納期化・低コスト化が必要不可欠であることを確認。機械導入のために、ものづくり補助金の申請支援を行い、採択に結び付けた。同時に、日本政策金融公庫と民間金融機関との調整を行い、6500万円の投資を実現した。この過程で経営方針を再確認し、「多品種・小量・超短納期対応の特注品・試作品のオーダーメイド加工特化」企業として、経営革新計画を策定し、承認を受けた。

また、先代から後を引き継いだ経営者は製造現場の数値管理やノウハウをもち合わせておらず、工場長をはじめとする熟練工の頭のなかにあるものに頼って経営にあたっていた。そこで商工会では、経営者としての知識を早期に習得してもらうため、専門家派遣制度を活用して製造現場の管理に長けた専門家を継続的に招き、とくに原価管理について徹底的に学んでもらい、将来を任せられる体制を整えた。

加工工程内のボトルネックが原因で、事業拡大が抑制されていることも判明した。それには「曲げ加工」の改善が必須



レーザーパンチ複合機をものづくり補助金で導入

で、事業拡大機会を検討した結果、「ハイブリッドドライブベンダー」という機械の導入が最適と判断。5000万円と高額なため、2回目のものづくり補助金の申請を支援し、採択を得ることができた。ものづくり補助金の具体的な実施期間はこれからだが、農機具の試作品受注の拡大だけでなく産業用工作機械部品の引き合いもあることから、順調な売り上げ増加を見込んでいる。あわせて先端設備導入計画の申請支援も行い、スムーズに認定を獲得。税務面での負担軽減につなげている。

支援の経過

期間	支援内容
H25年7月	ものづくり補助金の申請支援・認定
8月	経営革新計画の申請支援・承認
H27年12月	数値管理等専門指導により事業承継準備
H28年12月	経営力向上計画の申請支援・認定
H30年6月	ものづくり補助金(2回目)の申請支援・認定

会社概要

会社名：有限会社田中製作所
 住所：岡山県倉敷市栗坂467-19
 電話番号：086-463-4150
 URL：http://www.tanaka-ss-oka.co.jp/
 代表者名：門田悦子
 創業年：昭和56年
 年間売上高：2億579万円（平成30年度）
 従業員数：11名
 商工会名・担当者名：つくば商工会・産賀昭宏